

## ケース分析～統合(胸焼けの少年)

### <前分析>

- ① 印象 色黒でガリガリ体型だが基本健康。真面目で前向き。我慢強い。負けず嫌い。目的達成型
- ②健康度 7～8／10
- ③予後
  - ・良いレメディがある時＝食後の胸焼け吐き気症状がなくなり、現在の健康状態が更に良くなる。
  - ・良いレメディがない時＝食後の胸焼け吐き気症状は続き慢性化してゆくかも知れない。
- ④急性・慢性＝急性と慢性の間くらい(亜急性＝チフスマヤズム)
- ⑤治癒を妨げているものは＝無い。
- ⑥親和性(部位)＝胃・目・精神
- ⑦マヤズム傾向＝亜急性(チフス)マヤズム
- ⑧全体性＝食後に起きる胃の不調にまつわる乱れ。
- ⑨バイタリティー＝7～8／10

### <分析～統合>

基本的には、健康な人。1 年ほど前の受験とテニスの試合でのストレスをきっかけに、胃の不調が発症。元々無かった胸焼け・吐き気の症状が、やや急性的に出て来ている。彼の病気は、根深いものではなく、1 日寝たら回復するような軽度(亜急性的な)のものである。

精神・感情面は、激しさや怒りを内に秘めているようだが、特に乱れていない。また、知らない人や新しい環境への敏感さもあるようだが、15 歳という年齢を考えた時、また、ホメオパスとの受け答えから考えても、特に問題はない。精神症状により、胃の不調症状に影響を与えているとは考えにくい。従って、この CASE では、胃にまつわる症状に着目してアプローチして行く。

### ◆参考／サンカランのマヤズム分類<亜急性マヤズム>

Acute マヤズムと Psoric マヤズムの間は Typhoid マヤズムであると私は結論づけている。腸チフスには倦怠感を伴う長い前駆期があり、数日経ってからハッキリと体温が上昇してくる。熱は持続的で、日に日に高くなり生命を脅かすほどになる。Typhoid マヤズムは進行がゆっくりとしていると同時に急性の特徴も有する。外界から突然脅かされるとすさまじい奮闘をする—その反応は本能的なものではなく、そして奮闘するという要素をもっている。そのフィーリングは重大な危機的状況のそれであり、その時期に適切に対処できるならば完全に回復をみるだろう。

Typhoid マヤズムのメインレメディは Bryonia である。Bry.には“Fear of poverty: 貧困に対する恐怖”があり、富を求めて奮闘する。“Delirium, talks of business: ビジネスのことを話す譫妄状態”というルブリクスは、その状況がいかに危機的で突然であって、それに対してどれだけ患者がどれだけ凄まじく奮闘しているかということの表れである。Bry.にはまた“Fear of starving: 飢えることへの恐れ”がある。(溺れた人にたとえられる)

### (参考)チフスマヤズムの主要レメディ

Aeth. Carb-v. Hyos. Nux-v. Petr. Rhus-t.など